



国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立

鶴岡ロータリークラブ

例会場 東京第一ホテル鶴岡 (鶴岡市錦町 2-10) 例会日 毎週火曜日 (12:30~13:30)

平成27年 2月24日(火) 第2706回 例会 (本年度第28回)

3月 3日(火)	職場訪問 加藤嘉八郎酒造
3月10日(火)	情報委員会の日(真島吉也君)
3月17日(火)	ゲストスピーチ ドール・シェーンさん、奥山亜紗子さん「日本に魅せられて」
3月24日(火)	ゲストスピーチ 草ぶえの家代表 天野 俊秀 氏



Eメール◎tsuruoka08@rid2800.jp ホームページ◎http://www.tsuruokarc.org/

会長あいさつ

丸山 隆志 君

今日は佐々木先生のスピーチがありますので、報告は簡単にします。

先週の土曜日、ロータリー財団セミナーが米沢でありました。112号線が不通で大変だったと思います。越智さん、西川さん、藤川パスト、塚原パストご苦労様でした。セミナーを参考に次年度の計画をよろしくお願ひいたします。

大山の新酒祭り、我が社の人も行きましたが、すごい賑わいだったそうです。また昨日はローターアクトの例会で小林さんが、お茶のお点前をして下さり大変ご苦労様でした。佐藤孝子さん、藤川さん、青柳さんから出席頂きありがとうございました。

今日は佐々木先生から「家紋あれこれ」という演題でお話を頂きます。荘内日報にも執筆中で、私も家紋には興味があります。佐々木先生よろしくお願ひいたします。

なお、例会終了後クラブ協議会があります。鹿兒島西クラブとの兄弟クラブ 50周年のスケジュール説明が主な議題です。出席方、よろしくお願ひします。

幹事報告

菅原 成規 君

○ガバナー事務所

- ・クラブ 25 小委員会による
「少人数クラブの活性化について」
「ロータリー女性会員の集い」開催のご案内
日時：4月4日(土) 登録開始：9:30
12:30より昼食・後解散
場所：ホテルリッチ&ガーデン酒田
登録料：一人 2,000 円
- ・会長エレクト研修セミナー (PETS) のご案内
日時：3月14日(土) 登録：9:30
3月15日(日) 開会 9:30
会場：グラントホクヨウ

登録料：10,000 円 2/27 まで振込

○東京東江戸川 RC

東京東江戸川 RC 「観桜会」のご案内

日時：3月28日(土) 集合 PM5:00

集合：都営地下鉄新宿線一之江駅ビル口(東口)

出発：屋形船「あみ達」PM5:30 出発

「庄内農村の家紋」

NHK 文化センター庄内教室講師 佐々木勝夫 氏



家紋と言えばご存じのとおり水戸黄門の印籠が出てきます。ドラマの最後に格さんが葵の印籠を見せて皆に土下座させています。何故もっと早く見せないのかといつも思いますが、ドラマの構成上最後まで粘らなければいけないということでしょう。次に菊の御紋、パスポートにもあります。天皇家の御紋です。ご存じのとおり家紋は法律で定められているものではありませんので、自分の好きなものを選んで家紋にすることが出来ます。中にはうちの家紋を菊の紋にしたいと思う方がいるかもしれません。ちょっと心配ですが、菊の紋にしたからと言って逮捕されることはありません。

様々な家紋がある訳ですが、数えれば数千種類あるかと思えます。その中で今日お話しするのは庄内地方の農村の家紋です。温海町の山五十川集落を更に山手に上っていくと戸沢という集落があります。家紋の分布をみて頂くと、面白い。名字と家紋との

出席報告

会員数	36名
出席	26名
出席率	76.47%
前々回確定出席率	82.35%

■RI 会長 ゲイリー C.K. ホアン ■地区ガバナー 池田 徳博

■会長/丸山隆志 ■副会長/加藤 亨 ■幹事/菅原成規 ■会長エレクト/越智茂昭
■会報委員会/佐藤久樹・阿部純次・小林健郎・石田 雄

事務局：山形県鶴岡市錦町2-68 鶴岡SSビル1F TEL (0235) 28-3375 FAX (0235) 28-3376

関係がはっきりと分かれています。三川町東郷地区に東沼という集落があります。はっきりわかるのは「三つ引き」紋、これが大滝という名字と重なります。「三つ引き」紋が広く分布しているというのが東沼地区です。ご存じのように本家分家関係の中で家紋というのが出来てきます。大滝という総本家があって、大滝三郎衛門さんという家ですが庄内でも結構大きな地主でした。

これは、すみよし集落です。佐藤という名字と「違い矢」という家紋が重なっています。ここには佐藤東蔵さんという家があって、前の三川町長さんをされて、思恩園のお仕事もされておられました。また鶴岡の古文書研究会の会長さん、三川町郷土史研究会の会長さんでした。その佐藤東蔵さんの家が本家で、分家は皆同じ「違い矢」ということになります。普通庄内ですと佐藤という名字はたいてい「源氏車」紋ですが、ここだけは違うということです。

次に三川町の助川地区、ここは赤川沿いにありますが古くは奈良時代から栄えていたといわれています。ある本によれば2千戸あったと書かれています。今三川全体でも1800あるかどうかですから、助川だけで2千戸は大げさすぎますが、かつては赤川沿いの大きな港町として力を持っていた集落です。現在は40戸あるかないかです。この集落の特色は同じ名字なのに家紋がバラバラです。数多くの家紋に分かれているというところに特色があります。栄地区に小京田という小さな集落があります。面白いことに集落が全部同じ家紋です。名字は違いますが全部同じ家紋です。

三川の押切下組の家紋ですが、この場合は旧国道7号線沿いと元村とで少し様子が違っている。元村は加藤町、斎藤町といった非常に強い同族団が固まっているわけですが、旧国道7号線沿いは全く新しい家紋が見えてきています。これは、旧国道7号線沿いに新しい家が建ってきて、元村とは関わりのない家が増え、これまで押切下組では見られなかった家紋が少しずつ見えてきたという形です。

このようにしていくつかの家紋の特徴を見てきましたが、私が興味があるのは家紋と村との関わりです。戸沢地区の家紋は、本家分家関係が非常にはっきりしていて、同じ町、同じ本家から出たところでは同じ家紋を使っているという集落です。このような集落を本末の系譜関係といって分けています。非常に整った形です。このような集落は庄内では圧倒的に多い。それに対して助川の場合は同じ斎藤なのに5つか6つのグループに分れています。これを本支の系譜関係と分けています。この場合は総本家の力が無くなっていった、その下のいくつかの分家が力を持っていくつかのグループに分かれたと考えられています。小京田では名字が違っていても皆同じ紋、つまり血縁関係ではないわけです。これを親方子方関係の系譜といいます。つまり、強い親方がいてその親方の支配のもとにあって集落が出来て

きた。ではその親方は誰かという、それは羽黒山です。今でもこの集落は羽黒山と繋がりがあります。地縁・血縁を乗り越えて皆同じ家紋となったのではないかと考えられています。そのようにして集落の中には本家分家を超えて、お世話になっている親方との結びつきが強くなった。

このようにして集落の中には、本家分家の系譜関係、それも総本家から辿る系譜関係、それから直接の本家から辿る系譜関係、また、親方子方の中に関わる関係などがございます。これが集落と家紋の関係から見えることです。

次に最近の家紋の様子から集落の家紋について考えていきたいと思います。最近の農村、町中でも同じようですが、家紋がないという家が出てきています。それから自分の家の家紋を知らないという家も出てきました。自分の家の家紋が嫌なので別のものにしたという家が出てきました。さらに自分で家紋をつくるという人も出てきました。本家の家紋は嫌だ、俺は別の家紋にするというふうにして本家とは全く別の家紋を使っていくという家も出てきています。つまり家紋が本家分家関係を超えて装飾品としての家紋、かっこいい家紋強いて言えば葵や菊の家紋にしたいという訳です。次に家紋をうっかり間違えてしまう。墓に間違えて別の家紋を彫ったという例もあります。何故そうなったのか、家紋が生活の中に根を下ろしていないからです。誰も家紋に関心がない、誰かが間違った家紋を使っても分らない。村にあった焼印が無くなりました。屋号も分らない人が増えています。家紋も消えていく運命です。そうなるとどうなるか、家も力を失って、かつての村も力を失い、皆バラバラになっていくことを示しているのではないかと思います。

私は今、温海のしな織の関川というところの村おこしに関わっています。村が無くなるかどうなるか。私は村というものが日本人の心を育んできたと思います。村が力を失い、バラバラになっていく中で、結果として日本人の心もだんだんと消えて行ってしまうのではないかと危惧しています。時間になりました。ありがとうございました。

委員会報告

出席委員会

◆ゲスト：佐々木勝夫 氏

◆メイクされた方：越智茂昭君

スマイル 😊

丸山隆志君 佐々木先生ありがとうございました。

木村 節君 先週、先々週休ませていただき、また…

樋渡美智子君 家紋にも多くの歴史があること、具体例をあげてお話いただきました。ありがとうございます。さて我が家の家紋がどんな経緯を経て成り立っているか興味があります。